

2 0 2 3 年 度

私 費 外 国 人 留 学 生 選 抜

問 題 紙

小論文（日本語）	2 ページ
----------	-------

解答の書き方

1. 解答は解答用紙の所定の欄に、はっきりと記入すること。
2. 受験番号は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答を訂正する場合には、きれいに消してから記入すること。
4. 解答用紙には、解答と受験番号のほかは、いっさい記入しないこと。

注 意

1. 監督者の「解答始め」という指示のあるまで、問題紙を開かないこと。
2. 「解答始め」の合図と同時に、解答用紙に受験番号を必ず書くこと。ただし、氏名は記入しないこと。
3. 問題の内容についての質問には、いっさい応じないが、問題紙にページ不足・不ぞろい・印刷不良があるなど、その他の用事があるときは、だまって手をあげて、監督者の指示を受けること。
4. 問題紙と下書用紙は持ち帰ること。

以下の文章を読んで、各問に答えなさい。

まず、「論理的」ということの意味を押さえておきましょう。

たとえば、「なんて非論理的なんだ！」とか、ひとに言われたとして、まあたいていこれは悪口なわけですが、いったい、何が悪いと言われたのでしょうか。私としては、もしそんなことを言われたら、ひるまずに「非論理的って、どういう意味で言ってるわけ？」と尋ね返してやりたくなります。そしてもしそのひとが私の質問にとても論理的に「非論理的とはこれこれのことである」と答えてくれたなら、その悪口も甘んじて受けましょう。でも、なんだかモゴモゴ言うだけだったり、居直ったりしたら、まあ、いわゆる「目くそ鼻くそ」ってやつですね。私が鼻くそだとしてですが。

さて、それじゃあいったい「論理的／非論理的」って、ふつうはどういう意味で言われているのでしょうか。これは、ちょっと考えてみてください。けっこういろんな意味で使われているような気がします。

たぶん、ふつう「論理的」ということばで意味されているのは、「一貫している」とか「理詰めだ」といったことで、逆に「非論理的」というのは「飛躍している」とか「支離滅裂だ」とか「理屈が通ってない」といったことなのだと思います。「もう少し論理的に話せよ」と言うかわりに「思いつきで喋るんじゃない」なんて言い方をすることもできそうですが、これ、なかなかおもしろいです。ちょっと道草くってもいいのでしょうか。なんで、「思いつきで喋る」ことがすなわち「非論理的に話す」ことになるのか。

実のところ、私もこの文章を「思いつきで」書いています。何かを見て書いているわけではないので、当然、思いついたことを書いているわけです。話すときだってそうです。①思いついたことを話す。それ以外にどうしようもないでしょう。披露宴のスピーチで用意した原稿を読み上げるという場合は別ですが。だとすると、「思いつきで喋るんじゃない」というのは、何を言いたいのでしょうか。

たとえば、「映画見に行こうよ」と誘っておいて、相手が「何か見たいのある？」と聞き返してきたときに、「映画」で連想したのか、最近見なくなった女優の話なんかは始める。相手もつきあって「前は人気あったけどねー」とか言うと、「そうそう、それでさ」とか言って、落ち目になったお笑い芸人の話になって、そういえば、うちのクラスにおもしろいやつがいてさ、このまえなんか、と話はどんどん変わっていき、いつのまにか豚の角煮の話になって、角煮の入った中華まんじゅうに話は移ろうかというころ、「で、今日どうするのよ？」と相手がしびれをきらす。で、返ってきた答えが、「マジ天気いいし、海、行こっか」。思わず、こういう男とはつきあうんじゃないって言いたくなりますが、まあ、これなんかは「思いつきで喋ってる」と言える例になってるのだと思います。楽しそうですけどね。

それに対して、「何か見たいのある？」と聞かれて、「***とかおもしろそうじゃん」と、ちゃんと映画の題名を答えるなら、「思いつきで喋ってる」とは言われません。どこが違うのでしょうか。映画の題名を答える場合だって、思いついたからその題名を言っているわけです。だけど、「海、行こっか」の場合は、思いつきが奔放というか、気ままというか。最初

の自分の発言からどんどん離れて、ブタ角煮マンまで漂流していく。この脈絡のなさが、「思いつき」の面目躍如たるどころです。

つまり、「思いつきで喋る」というのは、ある意味でたいていの場合が思いつきで喋っているのですが、その中でもとくにそれまでの発言（自分のであれ、ひとのであれ）を無視して、その場で思いついたことを勝手気ままに喋るということのようです。そしてその点が、「非論理的」と言われることにもなるわけです。

逆に、「論理的」というのは、それまでの発言ときっちり関係づけて次の発言をすることだと言えるでしょう。「論理的」ということばがもっているこの側面は、かなり論理学が扱う「論理」に近づいたものになっています。おおざっぱに言えば、「論理」とは、ことばとことばの関係の一種なのです。だから、ことばとことばをきちんと関係づけて使うひとは「論理的」で、そのときそのときの思いつきで脈絡なく発言するひとは「非論理的」ということになります。

ことばって、すごいなあと素朴に感心するのですが、ひとつのことばは他のことばと互いに関連しあっている。「空」ということばと「雲」ということばは関連しあっていて、「雲」は「雨」と関連しあっている。こんなふうに関係づけていくと、「雨」は「水」と関係して、「水」はさらに「コーヒー」とも関係して、「コーヒー」から「豆」、「豆」から「小豆」を経由して、「あんこ」をまきこんで、ついにそれは、「アンパン」と関係する。「空」と「アンパン」は関係しているわけです。

こうしたことばとことばの関係は、もちろん、文と文の関係でもあります。たとえば「雨が降ってきた」ということは「上空から水滴が落ちてきた」ことを意味上含みますし、②「にわか雨が降ってきた」と言えはその水滴の落下はそれほど長くは続かないということの意味上含むわけです。（「一週間にわか雨が降り続いた」なんてことはありえません。）あたりまえじゃん、と言われそうですが、そしてたしかにあたりまえなのですが、実に、これが「論理」なのです。

ちょっと抽象的というか、イメージだけの言い方になりますが、ことばは意味の連関性をもっていて、それがことばとことばをつなぎ、意味のネットワークを作ります。ことばは網目状につながりあっているのです。そのネットワークを踏みはずさず、正確に行き来できるひと、それが「論理的」なひとにほかなりません。

出典：野矢茂樹『入門！論理学』（中公新書、2006年）より一部抜粋

- 問1 筆者は下線部①のように述べているにもかかわらず、なぜ「思いつきで喋る」ことが「非論理的に話す」ことになるとしているか、説明しなさい。（200字以内）
- 問2 筆者は「論理的」であるとはどのようなことであると考えているか。特に「文と文の関係」について、下線部②のような具体例を自分で考えて説明しなさい。（400字以内）